

倫理学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時
倫理思想概論	規範倫理学の根本問題	2	池田 隼	3	火	5
倫理思想概論	倫理学の基礎	2	村山 達也	4	金	4
倫理思想基礎講読	倫理学研究のレッスン (1)	2	村山 達也	3	水	3
倫理思想基礎講読	生の哲学と実存思想	2	戸島 貴代志	4	月	2
倫理思想基礎講読	倫理学研究のレッスン (2)	2	村山 達也	4	水	3
倫理思想各論	ベルクソンの思想	2	村山 達也	5	金	4
倫理思想各論	「呪（じゅ）」の思想	2	戸島 貴代志	6	火	2
倫理思想各論	行為の哲学	2	笠木 雅史	集中 (6)		
倫理思想演習	現象学と存在論	2	戸島 貴代志	集中 (5)		
倫理思想演習	ベルクソン『創造的進化』を読む	2	村山 達也	5	水	2
倫理思想演習	道徳批判と倫理学批判 をめぐる諸問題	2	村山 達也	5	金	2
倫理思想演習	生の哲学と実存思想	2	戸島 貴代志	6	月	2
倫理思想演習	現象学と存在論	2	戸島 貴代志	6	水	4
倫理思想演習	デカルトとエリザベト の往復書簡を読む	2	村山 達也	6	水	2
倫理思想演習	人生の意味と死をめぐる 諸問題	2	村山 達也	6	金	2

科目名：倫理思想概論／ Western Ethical Thought (General Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 5 講時

Semester：3, 単位数：2

担当教員：池田 隼 (非常勤講師)

講義コード：LB32502, 科目ナンバリング：LHM-PHI207J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：規範倫理学の根本問題

2. Course Title (授業題目)：Fundamental issues in normative ethics

3. 授業の目的と概要：

私たちは日常生活の様々な場面で、例えば「相手の不幸を避けるために嘘をつくことは倫理的に許されるか」といった様々な倫理的問題に直面します。この授業では、そのような問題を理論的に分析し、自らの立場を説得的なものとして構築する上で助けとなる規範倫理学の思想を紹介します。特に規範の正当化（「正しい」倫理規範の根拠は何か）と規範の動機づけ（なぜ「この私」が規範に従わなければならないのか）の 2 つの観点から近代の西洋倫理思想史を辿り、倫理問題を原理的に考察していきます。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

We are faced with some ethical dilemmas in our everyday lives (e.g.: Is it morally permissible to tell a lie in order to avoid making others unhappy?). This course serves as an introduction to normative ethical theories and provides an examination on such issues about morality. Our primary focus will be on two fundamental issues, justification of moral norms and moral motivation, in the modern Western ethical philosophy.

5. 学習の到達目標：

- (1) 倫理問題を検討する上で前提となる規範倫理学の基本的な知識と考え方を身につける。
- (2) 倫理的な問題設定を自分で行い、異なる立場の者と理論的な議論・応答ができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

First, you will learn the foundational principles of normative ethics so that you can develop a clear understanding of ethical issues. Second, you will be encouraged to think about ethical issues so that you can not only argue your position but also understand different positions.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入：規範の正当化と動機づけの問題
2. モラル・センス学派(1)：道徳判断の根拠は感情か理性か
3. モラル・センス学派(2)：共感と道徳的行為
4. 功利主義(1)：規範を正当化するのは帰結か意図か
5. 功利主義(2)：最大幸福の原理と動機づけ
6. 功利主義(3)：功利主義の批判的検討
7. カント(1)：道徳判断は普遍的か個別的吗
8. カント(2)：自律と動機づけ
9. カント(3)：カント倫理学の批判的検討
10. 自由意志論と決定論(1)：道徳的行為者性
11. 自由意志論と決定論(2)：2つの責任概念
12. 規範性の源泉(1)：自然法と社会契約論
13. 規範性の源泉(2)：個と共同体
14. 規範性の源泉(3)：道徳的行為者のアイデンティティ
15. まとめ：「よく生きる」とはどういうことか。学期末試験

8. 成績評価方法： 学期末試験(100%)

9. 教科書および参考書：

教科書は不要です（毎回、授業資料を配布します）。参考書は講義のなかで適宜紹介します。

There are no required texts for this course. A bibliography and further information will be given to students in every lecture.

10. 授業時間外学習：

講義で解説した倫理思想や参考文献をもとにして、倫理問題に対する自分自身の回答と根拠、予想される反論に対する応答を考えておくようにして下さい。

Students will be encouraged to read some books or articles referred in this course and think about ethical issues.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他：

特別な予備知識は不要です。適宜質問票を配布して授業で紹介した倫理思想についての質問を受け付ける機会を授業中に設けます。オフィスアワーは授業終了後とします。

This course will be taught in Japanese. Preliminary knowledge about ethics is not required. You can ask questions regarding the lecture after class.

科目名：倫理思想概論／ Western Ethical Thought (General Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：村山 達也 (准教授)

講義コード：LB45402, 科目ナンバリング：LHM-PHI207J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：倫理学の基礎

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Ethics

3. 授業の目的と概要：

「何が善いことで、何が悪いことなのか」「善悪など人それぞれではないのか」「そもそもなぜ善いことをしなくてはいけないのか」「幸福とは何か」「道徳と幸福にはどんな関係があるのか」「生きることには何の意味があるのか」……。こうした、人間の生き方の価値をめぐって生じるさまざまな問題について、できるかぎり明確に、理論的に答えようとするのが倫理学です。この講義を受講することで、現代倫理学の基礎知識や、そこで用いられる（やはり基礎的な）思考法についてひととおり学ぶことができます。ただし「現代」倫理学に特化しますので、倫理学的な側面については必要な範囲で触れるにとどまります。また、理論的な問題に特化しますので、いわゆる応用倫理学の問題については事例として簡単に挙げる程度です。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

These lectures will provide an introduction to ethics. Topics covered will include normative ethics, metaethics, happiness and the meaning of life; contemporary debates on justice; relation between morality and religion.

5. 学習の到達目標：

- (1) 倫理学の基礎知識（基本的な問題と主要な回答、ならびに重要な反論）を身につける。
- (2) 倫理学が用いる方法についての基礎知識を身につける。
- (3) 倫理学的な問題設定や考え方が自分でもできるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

The main purpose of this course is to provide basic knowledge of contemporary ethics (problems, theories, and objections), and help students consider moral problems by themselves.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第一回：導入——倫理学とは何か
- 第二回：価値の相対主義——道徳や幸福は人それぞれなのか
- 第三回：質問への回答
- 第四回：善悪の規準は何か——第一の答え
- 第五回：善悪の規準は何か——第二の答え
- 第六回：善悪の規準は何か——第三の答え
- 第七回：現代の正義論
- 第八回：質問への回答
- 第九回：善悪という性質は客観的なものなのか
- 第一〇回：なぜ善いことをしなくてはいけないのか
- 第十一回：質問への回答、ならびに道徳と宗教の関係
- 第十二回：幸福とは何か
- 第十三回：人生に意味はあるか
- 第十四回：質問への回答、ならびに試験についての説明
- 第十五回：全体のまとめ

以上はあくまで予定です。これ以上の詳細については初回に説明します。なお、理解度を確認し、その深化を図るため、毎回アンケートを取り（成績とはほぼ無関係）、質問に答える回を定期的に設けます。

8. 成績評価方法：

ほぼ学期末試験のみで行ないます。

9. 教科書および参考書：

教科書は不要です（必要なものはプリントを配布します）。参考文献は講義内で適宜紹介します。

10. 授業時間外学習：

講義内容がやや豊富なので、適宜復習し、参考文献にもあたるのが望ましい。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

特別な予備知識は不要です。なお、演習や卒論指導にあたっては、本講義に相当する内容が既習であることを前提としますので、倫理学専攻の学生はできるかぎり履修してください。

科目名：倫理思想基礎講読／ Western Ethical Thought (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：村山 達也 (准教授)

講義コード：LB33303, 科目ナンバリング：LHM-PHI215J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：倫理学研究のレッスン (1)

2. Course Title (授業題目)：Western Ethical Thought (Introductory Reading)

3. 授業の目的と概要：

この演習は、哲学・倫理学の文献を正確に読解し、そこで展開されている議論をまとめ、それにもとづいて討論したり発表したりする力を身につけるためのものです。

最初の 10 回程度は、教員が選んだテキスト（前期は日本語）をもとに、適宜講義を挟みつつ、レジュメを作成したり、テキストをもとに議論したりする訓練を行います。また、最後の 5 回程度は、みなさんに自分の問題関心にもとづいた発表を行っていただき、それをもとに議論します（前後期を通して全員が一回は発表することが望ましい）。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

We shall read a couple of chapters from introductory texts of philosophy and ethics. Previously appointed participants will make a brief report on an assigned passage and then all of us will discuss it. In the last four sessions previously appointed participants will give a presentation on the topic of their choosing and then all of us will discuss it.

5. 学習の到達目標：

(1) 哲学・倫理学の文献を読み、議論をまとめ、それにもとづいて討論する能力を身につける。

(2) 哲学・倫理学の文献を踏まえつつ、自分の問題関心で議論を展開することができるようにする。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Become able to understand and discuss texts of ethics written in English.

Become able to find and discuss topics in ethics.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス

2. 倫理学の入門的テキストの講読(1)

3. 倫理学の入門的テキストの講読(2)

4. 倫理学の入門的テキストの講読(3)

5. 倫理学の入門的テキストの講読(4)

6. 倫理学の入門的テキストの講読(5)

7. 廣松渉『世界の共同主観的存在構造』序章(1)

8. 廣松渉『世界の共同主観的存在構造』序章(2)

9. 廣松渉『世界の共同主観的存在構造』第 1 章(1)

10. 廣松渉『世界の共同主観的存在構造』第 1 章(2)

11. 廣松渉『世界の共同主観的存在構造』第 1 章(3)

12. 発表と討論(1)

13. 発表と討論(2)

14. 発表と討論(3)

15. 発表と討論(4)

8. 成績評価方法：

報告、討論、数回のコメントペーパーによる平常点 (60%) と、最後の発表ないしレポート (40%) で評価します。

9. 教科書および参考書：

廣松渉『世界の共同主観的存在構造』(岩波文庫)

その他、必要なものはプリントで配布します。

参考書は演習内で指示します。

10. 授業時間外学習：

事前にテキストを読み理解に努めてください。報告担当になったときには、事前に教員および TA に相談し、レジュメについてアドバイスを受ける用にして下さい。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他：

具体的な進め方は初回の授業のときに説明します(哲学基礎講読と合併で授業します。哲学専修の方は哲学基礎講読に登録して下さい)。

倫理学専修の 2 年生は必ず履修するようにしてください。他の専修の方は初回時に教員とご相談ください。

科目名：倫理思想基礎講読／ Western Ethical Thought (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 月曜日 2 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：戸島 貴代志 (教授)

講義コード：LB41204, 科目ナンバリング：LHM-PHI215J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：生の哲学と実存思想

2. Course Title (授業題目)：Philosophy of life and Existentialism

3. 授業の目的と概要：

1) ベルクソンの『思想と動くもの』を精読する。このテキストは、ベルクソンがみずからの主要著作の全体を極めてわかりやすくまとめた講演・論文集であるが、初学者にも配慮された文体はフランス語の教科書としても多用されるほど語彙や文法のバランスがよい。参加者には生の秘める問題を深く考える訓練の場として臨んでもらいたい。

2) ニーチェ、マルセル、ジンメル、メルロ＝ポンティ等を含めて、「生の哲学」と「実存思想」の異同を確認する。

3) 第二外国語がフランス語以外の学生にも配慮する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

This course provides an overview of the philosophy of H. Bergson to help students learn about some differences between life philosophy and existentialism.

5. 学習の到達目標：

「生の哲学」と「実存思想」との射程と異同を理解し、生命一般についての諸問題を深く思考できること。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

The purpose of this course is to understand some issues associated with life itself.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 「生の哲学」と「実存思想」 1
2. 「生の哲学」と「実存思想」 2
3. 「生の哲学」と「実存思想」 3
4. 「生の哲学」と「実存思想」 4
5. 「生の哲学」と「実存思想」 5
6. 「生の哲学」と「実存思想」 6
7. 「生の哲学」と「実存思想」 7
8. 「生の哲学」と「実存思想」 8
9. 「生の哲学」と「実存思想」 9
10. 「生の哲学」と「実存思想」 10
11. 「生の哲学」と「実存思想」 11
12. 「生の哲学」と「実存思想」 12
13. 「生の哲学」と「実存思想」 13
14. 「生の哲学」と「実存思想」 14
15. 「生の哲学」と「実存思想」 15

8. 成績評価方法：

発表 5 割、出席 5 割

9. 教科書および参考書：

ベルクソン、マルセル、メルロ＝ポンティ等のテキストを授業時に指示する。

10. 授業時間外学習：

テキストを読み、授業に備える。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

オフィスアワーは昼休み

科目名：倫理思想基礎講読／ Western Ethical Thought (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：村山 達也 (准教授)

講義コード：LB43303, 科目ナンバリング：LHM-PHI215J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：倫理学研究のレッスン (2)

2. Course Title (授業題目)：Ethics for Beginners: 2

3. 授業の目的と概要：

前期の「倫理学研究のレッスン (1)」の続きです。倫理学専修の2年生は必ず前期・後期ともに履修して下さい。(哲学専修の方は「哲学研究のレッスン」の欄をご覧ください。)

目的は、哲学・倫理学の文献を正確に読解し、そこで展開されている議論をまとめ、それをふまえて討論したり発表したりする力を身につけることです。

最初の10回ほどは英語のテキストを用います。折にふれて教員の解説を聞きながら、担当箇所のレジュメを作成し授業時に発表したり、テキストをふまえた討論をしたりします。最後の4回ほどは、担当者が自分で決めたテーマについて発表を行い、みなでそれをめぐって議論します(前期・後期を通じて1人1回発表して頂きますので、後期は、前期に発表しなかった方に発表して頂くことになります)。今学期発表をしない人には、自分で決めたテーマについての学期末レポートを提出して頂きます。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

We shall read a couple of chapters from Simon Blackburn's THINK in the first ten sessions except the very first. Previously appointed participants will make a brief report on an assigned passage and then all of us will discuss it. In the last four sessions previously appointed participants will give a presentation on the topic of their choosing and then all of us will discuss it.

5. 学習の到達目標：

(1) 哲学・倫理学の英語文献を読み、議論をまとめ、それにもとづいて討論できるようになる。

(2) 哲学・倫理学の文献を踏まえつつ、自分の問題関心から議論を展開できるようにする。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Become able to understand and discuss philosophical texts written in English.

Become able to find and discuss philosophical topics.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

変更するかもしれません。

1. ガイダンス

2～6. Simon Blackburn の THINK: A COMPELLING INTRODUCTION TO PHILOSOPHY の 'Free will' の章を読み、議論する。

7～11. 同書の 'Self' の章を読み、議論する。

12～15. 発表と討論

8. 成績評価方法：

英語テキストについてのレジュメ報告や討論 (60%)。最後4回ほどの発表、ないし学期末レポート (40%)。

9. 教科書および参考書：

授業時に説明する。

10. 授業時間外学習：

英語テキストを読んでいるときには、事前に、次回に取り上げる箇所を読み理解に努めてください。

レジュメ報告を担当するさい、事前に教員およびTAに相談し、アドバイスを受けて下さい。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

12. その他：

哲学基礎講読と合併で授業します。

哲学・倫理学以外の専修の方、哲学・倫理学専修でも、3年生以上の方が受講を希望される場合は、事前に、あるいは授業の初回に、教員として相談ください。

科目名：倫理思想各論／ Western Ethical Thought (Special Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：村山 達也 (准教授)

講義コード：LB55405, 科目ナンバリング：LHM-PHI307J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：ベルクソンの思想

2. Course Title (授業題目)：Introduction to the Works of Henri Bergson

3. 授業の目的と概要：

この講義では、ベルクソンの四つの主著（それぞれ自由意志、心身問題、生命論、社会・道徳・宗教論を扱う）について、基本的な議論の展開を確認したうえで、いくつかの問題を取り上げ、その背景・眼目・議論構造を検討します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course introduces the thought of a French philosopher Henri Bergson (1859-1941), covering his four major works, each of which discusses free will, mind-body problem, philosophy of life, and moral philosophy.

5. 学習の到達目標：

- (1)ベルクソンの思想の基本的な主張とその根拠や、解釈上の重要な論点を知ることができる。
- (2)ベルクソンの思想史上の位置づけを（とりわけ近世哲学との対比において）学ぶことができる。
- (3)思想史を研究するのに必要なさまざまな方法を学ぶことができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

This course is designed to help students understand the core elements of the thought of Bergson and learn about general methods used in the study of the history of ideas.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第一回：ベルクソンの思想の概要

第二回：ベルクソンの思想の特徴(1)：主題、発想、方法の観点から

第三回：ベルクソンの思想の特徴(2)：提示（プレゼン）の観点から

第四回：テキスト読解：『直接与件』第一章冒頭部

第五回：『物質と記憶』が取り組んだ基本的な問題と「イマージュ」

第六回：イマージュ概念の正当性の検討(1)

第七回：イマージュ概念の正当性の検討(2)「凝縮」を中心に

第八回：テキスト読解：『物質と記憶』第一章冒頭部

第九回：『創造的進化』第一章の概説

第一〇回：無の観念の批判について：その背景と眼目

第一一回：テキスト読解：論文「可能的なものと現実的なもの」（無の観念の批判）

第一二回：『二源泉』とデュアル・プロセス理論

第一三回：価値観の伝播と感情の伝播

第一四回：テキスト読解：『二源泉』第三章（ベルクソンは神の何を証明したのか）

第一五回：まとめ

8. 成績評価方法：

穴埋めと記述とからなる筆記試験によって評価する。

9. 教科書および参考書：

すべてプリントで配布する。各著作を事前に購入されたい場合には以下のものをお勧めする。

ベルクソン『時間と自由』中村文郎訳、岩波文庫（『意識の直接与件についての試論』と同じもの）

『物質と記憶』杉山直樹訳、白水社

『創造的進化』松井久訳、ちくま学芸文庫

『道徳と宗教の二源泉』森口美都男訳、中公クラシックス

10. 授業時間外学習：

配布するプリントを事前に熟読し、自分なりの分析を試みておくこと（次回読む箇所、分析法などについては授業内で適宜指示する）。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

科目名：倫理思想各論／ Western Ethical Thought (Special Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：戸島 貴代志 (教授)

講義コード：LB62208, 科目ナンバリング：LHM-PHI307J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：「呪（じゅ）」の思想

2. Course Title (授業題目)：Thoughts of 'Ju'

3. 授業の目的と概要：

「呪」とは森羅万象に対する原初の人間の思考方式・行動様式の一つである。講義では、「呪」について、古代インド、古代中国そして上代日本のそれぞれの個別例を参照しつつ考察し、現代における人間の思考方式や行動様式について根本的に考える。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

"Ju" is one of the original human ways of thinking and acting on all kinds of creatures. In the course of the lecture, "Ju" will be considered with reference to the individual examples of ancient India, ancient China, and ancient Japan, and the way of thinking and acting in modern times is expected to be fundamentally considered.

5. 学習の到達目標：

「呪」に潜む二重性格 — 自然に聞き従う受動性と自然を操作する能動性 — を理解し、現代のわれわれの思考を根底から規定する地平を自覚する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

To understand the dual nature of "Ju" - the passivity of listening to the voice of nature and the activeness of manipulating nature - and to become aware of the horizon that dictates our modern thinking.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 オリエンテーション
- 2 「呪」の具体例 ①
- 3 「呪」の具体例 ②
- 4 「呪」の一般的特徴①
- 5 「呪」の一般的特徴②
- 6 「呪」と「術」①
- 7 「呪」と「術」②
- 8 自然と人間①
- 9 自然と人間②
- 10 技術について
- 11 技術と芸術
- 12 「呪」と現代技術
- 13 「呪」の二重性①
- 14 「呪」の二重性②
- 15 まとめ

8. 成績評価方法：

出席5割、レポート5割

9. 教科書および参考書：

授業で指示する

10. 授業時間外学習：

みずから思考し、復讐を欠かさないこと

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

オフィスパワーは昼休み

科目名：倫理思想各論／ Western Ethical Thought (Special Lecture)

曜日・講時：後期集中 その他 連講

Semester：集中 (6), 単位数：2

担当教員：笠木 雅史 (非常勤講師)

講義コード：LB98825, 科目ナンバリング：LHM-PHI307J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：行為の哲学

2. Course Title (授業題目) : Philosophy of Action

3. 授業の目的と概要：

現代の分析哲学における行為の哲学についての入門講義である。行為の哲学の内実は多岐にわたるが、その中でも主要な問題である、「意図的行為」と「行為の理由」についての問題について学習する。それぞれの問題には、さまざまな哲学者によって異なる回答が提示されてきた。それらの異なる回答を理解するために必要となる概念的、理論的前提とともに、それぞれの回答がどのようなアーギュメントによって支持、批判されるのかを学習する。この学習を通じ、アーギュメントを自ら構築し、自分で哲学を行うことができるためのスキルの基礎を習得することが、本講義の主目的である。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

This is an introductory course in the analytic philosophy of action. Philosophy of action in contemporary analytic philosophy address many issues, among which issues about intentional action and reasons for action are of central importance. Different philosophers offer different answers to those issues. In this course, you will learn conceptual and theoreticl backgrounds of the prominent answers and skills in defending and criticizing arguments for them. The course aims to provide you with the basics for constructing philosophical arguments and do philosophy by yourself.

5. 学習の到達目標：

- (1) 実験哲学を含む、現代分析哲学の分析手法とアーギュメントの構築方法を習得する
- (2) 行為の哲学における様々な問題の意義を理解する
- (3) そうした問題への回答がどのようなアーギュメントによって支持、批判されているのかを理解する

6. Learning Goals (学修の到達目標)

- (1) To acquire argumentative skills in contemporary analytic philosophy including experimental philosophy
- (2) To understand the significance and importance of prominent issues in philosophy of action
- (3) To understand what arguments support and refute particular answers to those problems+F81

7. 授業の内容・方法と進度予定：

各回の講義では、以下の問題についてのさまざまな回答とそれぞれの回答についてのアーギュメントを解説する。5回目、10回目、15回目の講義では授業中小レポートを課し、質問への回答を記入してもらう時間を設ける。

- (1) 行為はなぜ哲学の問題となるのか：意図的行為と行為の理由
- (2) 意図性概念を分析するとはどのようなことか
- (3) 理由ゆえに行為することは意図的行為の十分条件か*[1]
- (4) 理由ゆえに行為することは意図的行為の必要条件か*[2]
- (5) 意図を持つことは意図的行為の必要条件か
- (6) 行為の結果は行為が意図的かどうかに影響するのか
- (7) 意図性という概念はどのような機能を持っているのか
- (8) 「意図性」は多義的な語なのか
- (9) 行為を説明するとはどのようなことか*[1], [2], [3]
- (10) 理由という概念はどのような機能を持っているのか*[3]
- (11) 何が行為の理由となるのか*[3]
- (12) 何がどの行為の理由となるのか*[4]
- (13) 理由ゆえに行為するとはどのようなことなのか*[2]
- (14) 理由と価値はどのように関係しているのか
- (15) まとめ：行為の哲学の諸問題はどのように関連しているか

*印の番号は、以下に述べる関連する参考文献を指示している。必須ではないが、可能であれば読んだうえで受講することが望ましい。

8. 成績評価方法：

- (1) 全3回の授業中小レポートを課す (各10%×3)
- (2) 最終レポート(70%)

9. 教科書および参考書：

教科書は用いず、講義前に資料を配布する。本講義が扱う文献のうち、以下の日本語訳が存在するものについては、必須ではないが、読んだうえで受講することが望ましい。

参考文献

- [1] Anscombe, G. E. M. (1957/2000). *Intention*, 2nd Edition. Harvard University Press. 翻訳：『インテンション—実践知の考察』，菅豊彦訳，産業図書，1984.
- [2] Davidson, Donald. (1963). “Actions, Reasons, and Causes.” *Journal of Philosophy*, 60 (23): 685-700. 翻訳：「行為・理由・原因」，『自由と行為の哲学』収録，門脇俊介＋野矢茂樹他訳，春秋社，2010年収録.
- [3] Smith, Michael. (1994). *The Moral Problem*. Blackwell. 翻訳：『道徳の中心問題』，樫憲章他訳，ナカニシヤ出版，2006.
- [4] Williams, Bernard. (1979). “Internal and External Reasons.” Reprinted in his *Moral Luck*. Cambridge University Press, 1981. 翻訳：「内的理由と外的理由」，『道徳的な運』収録，伊勢田哲治 監訳，勁草書房，2019.

1 0. 授業時間外学習：

各回の講義で扱った問題について、その回答の内容と回答を支持、批判するアーギュメントの構造を復習すること。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practicalbusiness

1 2. その他：

授業中の質問を歓迎します。授業に関するどのような質問でもよいので、ぜひ質問してください。

科目名：倫理思想演習／ Western Ethical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

Semester：集中 (5), 単位数：2

担当教員：戸島 貴代志 (教授)

講義コード：LB98826, 科目ナンバリング：LHM-PHI315J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：現象学と存在論

2. Course Title (授業題目)：Phenomenology and Ontology

3. 授業の目的と概要：

1) ハイデガーの『存在と時間』を精読する。本年度は、テキストでは「世界内存在」「被投」「企投」「言葉」「死」「不安」といった概念が中心となる。前年度に引き続き、そのつどハイデガーの「存在の問い」の核心に立ち戻りつつ、前期・中期・後期を貫く「存在」概念の柔軟な理解を目指す。

2) 西田哲学における存在概念とその探求方法を解明する。

3) ハイデガーについてはドイツ語を第2外国語としていない学生にも配慮し、西田については『善の研究』を中心に解説する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course provides an overview of philosophy of M. Heidegger to help students learn about issues associated with some problems of Being itself.

5. 学習の到達目標：

ハイデガーの「存在の問い」における人間・存在・世界のかかわりを理解することを通して、「現象学」と「存在論」の関係を把握する。西田哲学における「無」の概念について理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

The purpose of this course is to understand the relation of phenomenology and ontology.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 「現象学」と「存在論」 1
2. 「現象学」と「存在論」 2
3. 「現象学」と「存在論」 3
4. 「現象学」と「存在論」 4
5. 「現象学」と「存在論」 5
6. 「現象学」と「存在論」 6
7. 「現象学」と「存在論」 7
8. 「現象学」と「存在論」 8
9. 「現象学」と「存在論」 9
10. 「現象学」と「存在論」 10
11. 「現象学」と「存在論」 11
12. 「現象学」と「存在論」 12
13. 「現象学」と「存在論」 13
14. 「現象学」と「存在論」 14
15. 「現象学」と「存在論」 15

8. 成績評価方法：

発表7割、出席3割。

9. 教科書および参考書：

授業時に指示する。

10. 授業時間外学習：

テキストを読み、授業に備える。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他：

オフィスアワーは昼休み。

科目名：倫理思想演習／ Western Ethical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

semester：5, 単位数：2

担当教員：村山 達也 (准教授)

講義コード：LB53207, 科目ナンバリング：LHM-PHI315J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：ベルクソン『創造的進化』を読む

2. Course Title (授業題目)：Reading Henri Bergson's Creative Evolution

3. 授業の目的と概要：

ベルクソンの主著『創造的進化』(1907)の冒頭部をフランス語で読みます。ベルクソンは第一の主著『意識の直接与件についての試論』で「意識にとって時間とは何か」という問いを主に論じました。この第三の主著『創造的進化』冒頭部でベルクソンは、この問いを「物質にとって、そして生命にとって時間とは何か」という問いへと発展させ、興味深い議論を展開させています。この演習では、フランス語でベルクソンを正確に読み取りつつ、彼のテキストから議論を再構成し、その妥当性を吟味することを目指します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

In this course we read the opening pages of chapter 1 of Bergson's Creative Evolution. We shall follow the order of that text and examine Bergson's key claims. The key themes covered are (consciousness of) time, creation, individuality, science and its relation to philosophy.

5. 学習の到達目標：

- (1) フランス語で書かれたテキストを正確に日本語に訳せるようになる。
- (2) 古典的なテキストから議論を再構成し、それを批判的に吟味できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

This course aims to improve students' abilities to read philosophical texts in French and to reconstruct arguments from them.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第一回：導入 (ベルクソンについての簡単な紹介、テキストの配布、進め方の説明、担当の決定など)

第二回以降：訳読、報告、議論

8. 成績評価方法：

出席、担当、参加度により総合的に判断します。

9. 教科書および参考書：

必要なものはすべてプリントで配布します。

10. 授業時間外学習：

各回とも訳を用意しておいてください。参加者の人数や希望に応じて、動詞活用テストや訳の事前提出を課します。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

科目名：倫理思想演習／ Western Ethical Thought (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 2講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：村山 達也 (准教授)

講義コード：LB55208, 科目ナンバリング：LHM-PHI315J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：道徳批判と倫理学批判をめぐる諸問題

2. Course Title (授業題目)：Critique of Morality and Moral Philosophy

3. 授業の目的と概要：

とりわけ1970年代以降、徳倫理学の復権とも軌を一にするかたちで、既存の倫理学や道徳そのものに対する批判が数多くなされてきました。この演習では、そうした批判をなした論文から代表的なものをいくつか取り上げ、担当者によるまとめを踏まえて議論していきます。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

The aim of this class is to understand criticisms on morality and moral philosophy proposed especially after 1970's. We pick up some papers representative of these criticisms and examine their background, validity, and importance. It also enhances the development of students' skill in posing relevant questions and discuss moral problems. F81

5. 学習の到達目標：

- (1) 倫理学の論文を正確に読解できるようになる。
- (2) 倫理学的問題について書かれたテキストを読み、質問し、議論できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

This class aims to improve students' ability to read academic papers and pose relevant questions.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

第一回：導入

第二回以降：発表と議論

取り上げる予定の論文は以下のとおり：

フィリッパ・フット「ニーチェ——価値の再評価」

スーザン・ウルフ「道徳的聖者」

ジュリア・アナス「古代の倫理学と現代の道徳」

(いずれも『徳倫理学基本論文集』勁草書房、所収)

8. 成績評価方法：

演習への参加度や小レポートなどで総合的に判断する。

9. 教科書および参考書：

すべてプリントで配布する。

10. 授業時間外学習：

対象となるテキストを事前によく読み、不明点、疑問点、反論などを考えておくこと（最初は上手くできなくても構わない。不明点や反論などを提示できるようになることも、この演習の目的の一つである）。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

科目名：倫理思想演習／ Western Ethical Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 2講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：戸島 貴代志 (教授)

講義コード：LB61202, 科目ナンバリング：LHM-PHI315J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：生の哲学と実存思想

2. Course Title (授業題目)：Philosophy of life and Existentialism

3. 授業の目的と概要：

1) ベルクソンの『思想と動くもの』を精読する。このテキストは、ベルクソンがみずからの主要著作の全体を極めてわかりやすくまとめた講演・論文集であるが、初学者にも配慮された文体はフランス語の教科書としても多用されるほど語彙や文法のバランスがよい。参加者には生の秘める問題を深く考える訓練の場として臨んでもらいたい。

2) ニーチェ、マルセル、ジンメル、メルロ＝ポンティ等を含めて、「生の哲学」と「実存思想」の異同を確認する。

3) 第二外国語がフランス語以外の学生にも配慮する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

This course provides an overview of the philosophy of H. Bergson to help students learn about some differences between life philosophy and existentialism.

5. 学習の到達目標：

「生の哲学」と「実存思想」との射程と異同を理解し、生命一般についての諸問題を深く思考できること。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

The purpose of this course is to understand some issues associated with life itself.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- | | |
|------------------------|----|
| 1. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 | 1 |
| 2. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 | 2 |
| 3. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 | 3 |
| 4. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 | 4 |
| 5. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 | 5 |
| 6. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 | 6 |
| 7. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 | 7 |
| 8. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 | 8 |
| 9. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 | 9 |
| 10. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 | 10 |
| 11. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 | 11 |
| 12. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 | 12 |
| 13. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 | 13 |
| 14. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 | 14 |
| 15. 総合演習：「生の哲学」と「実存思想」 | 15 |

8. 成績評価方法：

発表5割、出席5割

9. 教科書および参考書：

ベルクソン、マルセル、メルロ＝ポンティ等のテキストを授業時に指示する。

10. 授業時間外学習：

テキストを読み、授業に備える。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

オフィスアワーは昼休み

科目名：倫理思想演習／ Western Ethical Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：戸島 貴代志 (教授)

講義コード：LB63401, 科目ナンバリング：LHM-PHI315J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：現象学と存在論

2. Course Title (授業題目) : Phenomenology and Ontology

3. 授業の目的と概要：

1) ハイデガーの『存在と時間』を精読する。本年度は、テキストでは「世界内存在」「被投」「企投」「言葉」「死」「不安」といった概念が中心となる。前年度に引き続き、そのつどハイデガーの「存在の問い」の核心に立ち戻りつつ、前期・中期・後期を貫く「存在」概念の柔軟な理解を目指す。

2) 現象学と存在論のかかわりをハイデガーの存在概念とその探求方法とを通して解明する。

3) ドイツ語を第 2 外国語としていない学生にも配慮する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

This course provides an overview of philosophy of M. Heidegger to help students learn about issues associated with some problems of Being itself.

5. 学習の到達目標：

ハイデガーの「存在の問い」における人間・存在・世界のかかわりを理解することを通して、「現象学」と「存在論」の関係把握する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

The purpose of this course is to understand the relation of phenomenology and ontology.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 「現象学」と「存在論」 1
2. 「現象学」と「存在論」 2
3. 「現象学」と「存在論」 3
4. 「現象学」と「存在論」 4
5. 「現象学」と「存在論」 5
6. 「現象学」と「存在論」 6
7. 「現象学」と「存在論」 7
8. 「現象学」と「存在論」 8
9. 「現象学」と「存在論」 9
10. 「現象学」と「存在論」 10
11. 「現象学」と「存在論」 11
12. 「現象学」と「存在論」 12
13. 「現象学」と「存在論」 13
14. 「現象学」と「存在論」 14
15. 「現象学」と「存在論」 15

8. 成績評価方法：

発表 7 割、出席 3 割。

9. 教科書および参考書：

授業時に指示する。

10. 授業時間外学習：

テキストを読み、授業に備える。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

オフィスアワーは昼休み。

科目名：倫理思想演習／ Western Ethical Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

semester：6, 単位数：2

担当教員：村山 達也 (准教授)

講義コード：LB63206, 科目ナンバリング：LHM-PHI315J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：デカルトとエリザベトの往復書簡を読む

2. Course Title (授業題目) : Reading the Correspondence between Elizabeth and Descartes

3. 授業の目的と概要：

デカルトとエリザベトが交わした往復書簡から、心身問題や倫理学に関わる問題を論じた箇所を抜粋して読みます。エリザベトの、ときに鋭く、ときに切迫した問いかけに、デカルトがどう答え（損ね）たか、エリザベトがデカルトをさらにどう追い詰めたのかを検討することをつうじて、近代哲学の根本問題についての理解を深めることを目的とします。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

In this class, we read excerpts from the correspondence between Descartes and Princess Elizabeth and examine their philosophical discussions. Through this examination, we aim to understand mind-body problem, 17th century ethics, and the core problems of (early) modern philosophy.

5. 学習の到達目標：

- (1) フランス語で書かれたテキストを正確に日本語に訳せるようになる。
- (2) 古典的なテキストから議論を再構成し、それを批判的に吟味できるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

This course aims to improve students' abilities to read philosophical texts in French and to reconstruct arguments from them.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第一回：導入（デカルトとエリザベトの往復書簡についての簡単な紹介、テキストの配布、進め方の説明、担当の決定など）
第二回以降：訳読、報告、議論

8. 成績評価方法：

出席、担当、参加度により総合的に判断します。

9. 教科書および参考書：

必要なものはすべてプリントで配布します。必須ではありませんが、訳本には以下のものがあります。
『デカルト＝エリザベト往復書簡』（山田弘明訳、講談社学術文庫）

10. 授業時間外学習：

各回とも訳を用意しておいてください。参加者の人数や希望に応じて、動詞活用テストや訳の事前提出を課します。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：倫理思想演習／ Western Ethical Thought (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：村山 達也 (准教授)

講義コード：LB65207, 科目ナンバリング：LHM-PHI315J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：人生の意味と死をめぐる諸問題

2. Course Title (授業題目)：Philosophy of Death and the Meaning of Life

3. 授業の目的と概要：

人生の意味の哲学や死の哲学は、現代の哲学においてそれぞれホット・トピックをなしています。この演習では、まずは、それぞれの主題をめぐる古典的な論文や、代表的な哲学者による論文を読み、それらについて議論します。それを踏まえて全員にレポートを書いてもらい、後半は発表演習とします。

初回に (参加人数を勘案しながら) 予定をある程度固めますので、参加希望者は必ず初回に出席してください。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

This course focuses on philosophy of death and philosophy of the meaning of life. After reading some classical texts, students are to submit essays on these issues. The classes of the last half of the semester will be devoted to presentations by students and general discussion.

5. 学習の到達目標：

(1) 倫理学の論文を正確に読解できるようになる。

(2) 倫理学的問題について書かれたテキストを読み、質問し、議論できるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

This class aims to improve students' ability to read academic papers and pose relevant questions.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第一回：導入

第二回以降：発表と議論

取り上げる予定の論文は以下のとおり：

ロバート・ノージック「人生の意味」(『考えることを考える』所収)

スーザン・ウルフ「人生の意味」(英語)

シェリー・ケーガン『死とは何か』からいくつかの章

8. 成績評価方法：

演習への参加度やレポートなどで総合的に判断する。

9. 教科書および参考書：

すべてプリントで配布する。

10. 授業時間外学習：

対象となるテキストを事前によく読み、不明点、疑問点、反論などを考えておくこと (最初は上手くできなくても構わない。不明点や反論などを提示できるようになることも、この演習の目的の一つである)。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

